

社会科学学習指導案

平成30年1月18日(木)

I 単元 特色ある地域の人々の暮らし ―外国人が多い大泉町―

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性

大泉町のまちづくりの特色についての問題を主体的に調査し、解決しようとする態度、地域社会の一員としての自覚と愛情

①知識・技能

大泉町では行政や日本人、外国人が協力して共生のまちづくりに努めていることへの理解、地図帳や写真、インタビュー記事、新聞記事などで調べる技能

②思考力・判断力・表現力

大泉町のまちづくりの特色について、行政や日本人、外国人の様々な取組から総合して考え、表現する力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

(5) 県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

(イ) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

(3) 本単元の学習とその価値

本単元は、大泉町の行政や日本人、外国人の取組を地図帳や写真、インタビュー記事、新聞記事、パンフレットなどで調べ、大泉町のまちづくりの特色を考え、地域の日本人と外国人が共生できるまちづくりに努めていることを理解する学習である。その価値は以下の通りである。

群馬県には、約 53000 人の外国人が住んでおり、その数は年々増加の傾向にある。町の人口の 18 %が外国人という大泉町は、平坦な地形や首都圏へのアクセスのよさを利用し、大手企業の工場が多数立地する工業が盛んな町である。町では約 30 年前から、工場の労働者不足を補うために来日したブラジル等からの日系人労働者の増加によって、不就学、ごみの不法投棄、騒音などの問題が生じた。そこで、町では日本語学級の設置、多言語での情報提供、住民による地域のルール指導などを通して、外国人の生活支援と日本人との相互理解に努めてきた。また、東日本大震災を契機に、外国人によるボランティア活動が始まり、外国人が「支援される人々」から「地域の生活者」という立場で捉えられつつある。大泉町の産業の歴史的背景を知り、行政、日本人、外国人の取組を調べ、大泉町のまちづくりの特色を考えることを通して、大泉町では三者が協力して日本人と外国人が共生できるまちづくりに努めていることを理解できる。このことは、

前橋市に住む子どもたちにとって、群馬県の地域的特色を理解する上で重要である。また、外国人との共生に関して、未来の日本の縮図とも言える大泉町の学習は、グローバル化する将来の群馬県を担う一員としての自覚と愛情を養うことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は4年「織物工業が盛んな桐生市」で、以下の学習に発展していく。

桐生市の位置や自然環境、織物産業の歴史的背景、織物工業に関わる人々やそれを支える地域の人の取組を地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめることを通して、桐生市では、織物工業の伝統を守り、それを活かしたまちづくりに努めていることを理解する学習。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは4年「観光客が多い片品村」で片品村の位置や自然環境、観光業や自然保護に関わる人々の取組を地図帳や各種の資料で調べ、関係図にまとめることを通して、片品村では、行政と地域住民が協力して豊かな自然を活かした観光業を行い、自然保護を通して持続可能な発展に努めていることを理解した。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるに当たっての指導方針は、次の通りである。

① 片品村では、人々が協力して豊かな自然を活かした観光業を行い、自然保護を通して持続可能な発展に努めていることを理解している。このような子どもたちが、大泉町では行政、日本人、外国人が協力して日本人と外国人が共生できるまちづくりに努めていることを理解できるように、それぞれの立場の取組を段階的に追究する学習過程を設定する。

また、片品村の様子について、地形図や写真、観光パンフレットを基に調べることができるようになってきている。このような子どもたちが、大泉町の様子について、町の話や新聞記事、写真などを基に調べられるように、町の広報誌と外国人に関する取組をまとめた資料集を用意する。

② 片品村のまちづくりの特色について、自然環境と観光業を関連付けたり、持続可能な開発を行う人々の協力関係に着目したりして考え、表現してきた。このような子どもたちが、大泉町のまちづくりの特色について、行政や日本人、外国人の様々な取組を総合して考え、表現することができるように、大泉町で行われている共生できるまちづくりのための取組について、日本人と外国人のそれぞれの立場から見たよさを話し合い、関係図にまとめる活動を設定する。

③ 片品村のまちづくりの特色について疑問点や調べたいことをもち、問題を主体的に追究してきた。このような子どもたちが、大泉町のまちづくりの特色について問題を主体的に追究できるように、学習問題に対する観点ごとの予想や、調べる方法、分かりそうなことを学級全体で話し合い、学習計画表を作成する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

1 ねらい 町の取組について調べ、その意味を話し合うことを通して、町は共生できるまちづくりのために、日本人にも外国人にも暮らしやすい環境づくりを行っていることを理解する。

2 準備 短冊 町の取組に関する写真 町が転入外国人に向けて発行するお知らせ
住民意識調査結果のグラフ

3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は町の取組を、役場の人の話や町が出している資料で調べるのだな。 ・学校と同じように、日本人にも外国人にもよい取組をしていると思うな。 <p>2 行政の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみカレンダーを外国語で作れば、外国人がごみ捨てるのマナーを守れるよ。 ・他にも「文化の通訳」もごみ捨てるのマナーがよくなることにつながるね。 <p>3 行政の取組の意味を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を見ると、外国人は日本語が分からないことを困っているから、外国語で書くのは外国人にとっては助かるね。 ・日本人は、地域のルールを守ってほしいと考えているから、ごみカレンダーは、日本人にとってもよい点だね。 ・町の取組の多くは、日本人にも外国人にとってもよい点があるから、共生できるまちづくりにつながっているね。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町は共生できるまちづくりのために、外国人に言葉や日本の文化を教えて、日本人にも外国人にも住みやすい環境を作っていることが分かったよ。 ・アンケート結果と町の取組のよさを合わせて考えたり、立場を変えて考えたりしたから共生できるまちづくりのための町の取組についてよくわかったよ。 ・次は、地域の日本人の取組について調べていくんだね。また、アンケート結果と合わせて共生できるまちづくりのための取組を調べていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「共生できるまちづくりのための町の取組を明らかにするために、インタビュー記事や町の資料を基に調べよう」という本時のめあてをつかめるように、学習計画表を提示し、学習問題を追究する観点や方法を問いかける。 ○共生のまちづくりのための町の取組について調べたことを補完・修正できるように、ペアで調べたことを交流する時間を確保する。 ○町の取組を学級全体で共有できるように、発表された取組を短冊に書き、板書する。 ○共生の視点から町の取組の意味を考えられるように、住民意識調査の結果を提示し、それを基に日本人、外国人それぞれの立場から見た町の取組のよさを問いかける。 ○共生の視点から取組の意味を考える方法を学級で共有できるように、複数の資料を関連付けたり、複数の立場でよさを考えたりしている児童を賞賛する。 ○町の取組の意味と共生できるまちづくりとの関係を視覚的に捉えられるように、町の取組が書かれた短冊を日本人と外国人の住民意識調査の結果と直線で結びつけて板書する。 ○町は、日本人にも外国人にも住みやすい環境づくりを行っていることを記述できるように、「大泉町では、共生できるまちづくりのために、」と書き出しを示し、後に続くまとめの文を書くよう促す。 <div data-bbox="737 1543 1401 1798" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">町は外国人への言語支援、生活支援を通して、日本人にも外国人にも住みやすい環境づくりに努めていることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント、発言①></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の資料から分かることを関連付けたり、立場を変えて資料を見たりすることによる成果を実感できるように、「どのように学んだか」の視点を提示し、振り返りを書くよう促す。

指導と評価の計画（全7時間）

目標	大泉町のまちづくりの特色について学習問題を意欲的に追究し、行政や日本人、外国人の協力関係について考え、日本人と外国人が共生できるまちづくりに努めていることを理解する。			
評価規準	<p>(①知識・技能)町や学校が外国人も日本人も住みやすい環境を整備していること、日本人と外国人が相互理解に努めていること、外国人が地域住民の一員として活動していることなどを基に、大泉町では日本人と外国人が共生できるまちづくりに努めていることを理解している。 大泉町の様子について地図や写真、新聞記事、パンフレットなどを活用して調べている。</p> <p>(②思考力・判断力・表現力等)大泉町のまちづくりの特色について、学校や行政、日本人、外国人の様々な取組のよさを総合して考え、説明している。</p> <p>(③学びに向かう力・人間性等)大泉町のまちづくりについて関心をもち、学習問題や予想、学習計画を考え、主体的に追究しようとしている。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○群馬県内の外国人の多い市町村について話し合い、大泉町の様子について課題意識をもつ。 学習問題 大泉町では、外国人と共生できるまちづくりのために、だれがどのようなことをしているのだろう。	○大泉町の様子について課題意識をもてるように、以前に起こった日本人と外国人のトラブルに関する新聞記事と最近の住民満足度調査結果を提示する。	◇大泉町の様子について疑問点や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言③>
	1	○学習問題について予想や調べる方法を考え、学習計画を立てる。 <調べる観点> ・学校の取組 ・町の取組 ・日本人の取組 ・外国人の取組	○学習問題について追究する見通しがもてるように、町が発行する広報や地域住人によるマナー講座の写真を基に外国人と共生できるまちづくりのための取組を予想し、学級全体で学習計画表を作成する活動を設定する。	◇観点ごとに予想や調べる方法を考え、調べた結果分かりそうなことを記述したり発言したりしている。 <学習プリント・発言③>
追究する	1	○学校の取組を調べ、その意味を、共生できるまちづくりの視点で話し合う。	○大泉町の学校では、日本人と外国人の子どもたちが共に学ぶことができる環境作りに努めていることを理解できるように、日本語学級の資料や教員へのインタビュー記事を基に、取組の成果と共生できるまちづくりとの関連を話し合う活動を設定する。	◇学校では、日本人と外国人の子どもが共に学ぶことができる環境作りに努めていることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
	1	○町の取組を調べ、その意味を、共生できるまちづくりの視点で話し合う。 <本時>	○大泉町では、外国人への言語支援、生活支援を通して、日本人も外国人も住みやすい環境を整えていることを理解できるように、「文化の通訳」事業や外国人向け広報等の資料を提示し、その意味を住民意識調査のアンケート結果と結びつけて話し合う活動を設定する。	◇町では、外国人への言語支援、生活支援を通して、日本人にも外国人にも住みやすい環境づくりに努めていることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
	1	○日本人の取組を調べ、その意味を、共生できるまちづくりの視点で話し合う。	○地域住民の取組により、住民と外国人が、それぞれの文化や習慣を理解することで差別や偏見が少なくなっていることを理解できるように、地域の商店街の取組に関する写真や店主のインタビュー記事を基に、取組の成果と共生できるまちづくりとの関連を話し合う活動を設定する。	◇地域住民の取組により、住民と外国人が、それぞれの文化や習慣を理解することで差別や偏見が少なくなっていることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
	1	○大泉町に定住した外国人の取組を調べ、その意味を、共生できるまちづくりの視点で話し合う。	○外国人の取組により、外国人が地域の生活者として認められるようになってきていることが共生できるまちづくりにつながっていることを理解できるように、外国人による地域清掃活動や、炊き出しボランティアなどに関する資料を提示し、取組の影響と共生できるまちづくりとの関連を話し合う活動を設定する。	◇外国人の取組により、外国人が地域の生活者として認められてきていることが共生できるまちづくりにつながっていることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
・まとめる	1	○これまでの学習を振り返って学習問題の答えをまとめる。	○大泉町のまちづくりの特色について、行政、日本人、外国人の様々な取組の意味を総合して考えることができるように、4つの観点の関係を図にまとめて話し合う活動を設定する。	◇大泉町では、日本人にも外国人にも住みやすい環境づくりを基に相互理解を推進し、最近外国人による地域の生活者としての活動によって外国人と共生できるようにしていることをまちづくりの特色として記述している。 <学習プリント①②>